

ベナン隊あるある4コマ劇場

～小学校教育編～

学校巡回を通して私が体験したあるある
エピソードを4コマで紹介します！

平成28年度1次隊 加藤千智

職種：小学校教育

任地：西アフリカ/ベナン共和国・ザボタ市

配属先：ザボタ視学官事務所

第1幕「こども大工さん」



新学期が始まって2ヶ月が経った11月のある朝、任地の某小学校にて。

わたし：「・・・こどもがいない！」

6年生のクラスを訪れたものの、教室の中はもぬけの殻。教室の鍵はもう開いているし、始業の時間はとうに過ぎているのに、みんなどこに行ったのでしょうか？先生すら見当たらないのでは仕方がない、気長に待つしかありません。

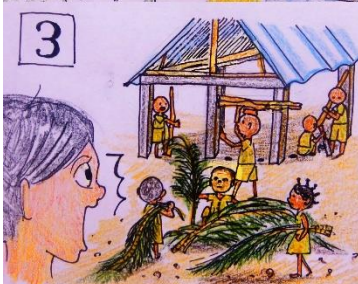


むすっとして待っていると、ザッザッと何かを引きずる音が近づいてきます。

わたし：「ん？」

すると、どこから見つけてきたのか、1人の女の子が体の倍の長さはあるヤシの葉を肩に担いで通り過ぎていくのです。

わたし：「なにしているの・・・？」



女の子の歩く先に目を向けるとびっくり・・・！校庭の隅には、むき出しのコンクリート柱にトタン屋根のついた建物がひとつ。その建物に続々と集まるこどもたちは、既存の柱を基盤にしながヤシの葉で手作りの壁を作り始めたのです。どこから現れたのか、いつのまにか作業を仕切る先生方の姿も。こどもたちは、先生の指示を待たずとも慣れた手つきで着々と作業を進めます。



こども：「ちさと、そこ結んで。」わたし：「は、はい・・・！」

午後の作業からは、わたしも見習い大工として参加させてもらいました。

壁の土台になる木を組み終わったら、こどもたちが集めてきたヤシの葉を木の柵に編み込むように1本ずつ通していきます。一日かけて、心地よい風と光が通るヤシの壁ができあがり。これで、学校に「教室」がひとつ増えました！

あるある解説

ベナンでは、小学校教育の無償化と留年制度によって、特に年度初めは1クラスの許容人数が飽和状態になることがあります。中には、1クラスに100人以上がいるなんてことも。そこで深刻な問題の1つが「教室不足」です。そんな時は、一時的にクラスの人数を分割するため、屋外に即席教室を作ることがあります。こどもたち自身が材料集めから壁作りまで手際よくせっせとこなす姿は、“遅しい”の一言に尽きます。



第2幕「オレンジとボンボン」



こども：「ねえ～ボンボン買って～！」

フランス語で「ボンボン」とは、キャンディのこと。現地のこどもたちが大好きなお菓子の1つです。

ある日、町の商店で買い物をしていると、案の定、小さなこどもがボンボンをねだってきました。高いものではありませんが、欲しがるこどもに与え始めるときりがありません。私は心を鬼にして「だめ。」と断りました。

こども：「ええ～、ちさとのケチ！」



さて、月日は過ぎ、とある村の小学校に2日間滞在した時のこと。

最終日の午後、お昼休みを終えて登校してくるこどもたちが皆、オレンジを持ってきて1つの大きな袋に詰めています。任地のザポタ市はオレンジの産地、至る所でオレンジの木を見かけます。こどもたちが寄せ集めているのは、どうやら、登校がてら拾ってきたオレンジのようです。

わたし：「こんなにたくさんのオレンジ、どうするの・・・？」

訝しんでいると、校長先生の一言で事態は思いもよらぬ展開に。

校長：「このオレンジ、ちさとにあげるよ。2日間ありがとう。」

わたし：「・・・え！・・・でも、こんなにたくさん？」

校長：「大丈夫！こどもが頭にのせて家まで運ぶから問題ないよ。」



放課後、こどもたちは、てんこ盛りのオレンジを頭にのせ、途中で運ぶ人を交代しながら、3km以上はある道のりを一緒に歩いてくれました。



ようやく家に到着。私は、オレンジを玄関の前に残して帰りかけたこどもたちを引き止めて、買って来たボンボンを渡そうとしました。

復路を手ぶらで歩かせるのはあんまりだ、それに、大好物のボンボンなら喜んでくれるのでは、単純にそう思っていたのです。

すると、差し出されたボンボンを目の前にしてある男の子が言いました。

男の子：「ちさとが僕らのオレンジをもらって。それだけでいいんだよ。」

そして彼らは、来た道を元気よく駆け戻っていきました。私は彼らの真っすぐさに胸を打たれ、何も言葉が返せませんでした。

あるある解説

これは、あるあるというよりベナン人らしさなのですが、とにかく心が温かくて恩に厚い。そしてそれは、村の奥へ行けば行くほど顕著になると学校巡回を通して実感しています。特に村落部のこどもたちにとっては、私のような外国人は珍しく、滅多に会えないお客さん。だからこそ、学校を訪れただけで大喜びしてくれるし、こちらが申し訳なくなるほどお礼をされることもあります。でもそれは、相手の純粋な感謝の想いのしるし。このように、行く先々で人々の優しさに触れられるのも学校巡回の醍醐味です。



↑3コマ目、実際の写真
道の両脇は一面オレンジ畑です。